

第 1 回 周南市まちづくり総合計画審議会 会 議 録

日 時：平成 31 年 3 月 26 日（火） 13 時 30 分から

場 所：周南市役所 本庁舎 4 階 防災対策室

【会 議 次 第】

- 1 開会
- 2 委嘱状の交付
- 3 市長あいさつ
- 4 委員の自己紹介等
- 5 会長及び副会長の選出
- 6 総合計画及び周南市まちづくり総合計画審議会について
- 7 周南市の現状について
- 8 スケジュール等について
- 9 閉会

《 配付資料 》

- 資料1 周南市まちづくり総合計画審議会委員名簿
- 資料2 周南市総合計画策定条例
- 資料3 周南市まちづくり総合計画審議会規則
- 資料4 総合計画とまちづくり総合計画審議会について
- 資料5 周南市の現状について
- 資料6 スケジュール等について

《 参考資料 》

- 第2次周南市まちづくり総合計画（概要版、本編）

第1回 周南市まちづくり総合計画審議会 会議録

- 日時 平成31年3月26日(火) 13時30分から
- 場所 周南市役所 本庁舎4階 防災対策室
- 出席者
- ・委員 24名
原田 浩樹、田中 義啓、小林 展衣、原田 邦昭、藤井 憲治、丸山 康子、
戸倉 ひとみ、梶山 正一、渋谷 栄子、藤井 秀尚、山田 みゆき、
岡本 大、片山 恵子、藤村 和義、荒谷 貴弘、高橋 俊彦、附田 尚美、
原田 恵美子、河田 正樹、井出野 尚、梅野 潤子、目山 直樹、
有馬 裕就、長合 香奈
 - ・周南市長 木村 健一郎
 - ・事務局 6名
政策推進部長 山本 敏明、政策推進部次長 中村 和久、
企画課長 川口 洋司、課長補佐 中村 貴子、企画担当係長 中村 充孝、
主任 通山 汐里
- 資料 ・会議次第のとおり

会 議 議 事 録

1 開 会

2 委嘱状の交付

～市長より委員へ委嘱状を交付～

3 市長あいさつ

改めまして、皆様こんにちは。市長の木村健一郎でございます。

皆様方、この度は周南市まちづくり総合計画審議会委員にご就任いただき、誠にありがとうございます。また、平素から皆様方におかれましては、本市のまちづくりや市政運営に様々な形でご支援、ご協力を賜りまして、改めてお礼を申し上げます。

まちづくりはエンドレスだと思います。過去からずっとつながってきたこの素晴らしいまちを、我々の子どもや孫や、まだ見ぬ子孫につないでいく。そのためには、まちづくりの道筋をつけることが、今を生きる私たちの使命の1つではないかと思っております。

様々な経験をされた委員の皆様や、若くてフレッシュな委員の皆様の意見もぜひお聞かせ願えればと思います。今回は様々な分野からたくさんの方々にお集まりいただきまし

た。その経験による知見や日頃感じておられることなど、どうか審議会の場では忌憚のないご発言をいただきたいと思います。そして、2020年度から始まる後期基本計画の策定にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

大切なことは「自立」ということを私はいつも申しております。自立した市民が本市の自立したまちづくりを進めるため、皆様方の英知を結集して、より良い計画を共に作ってまいりましょう。

本日は、どうぞよろしく申し上げます。

4 委員の自己紹介等

◇事務局 続きますして、委員の自己紹介に移りたいと存じます。原田浩樹委員より順番に、お一人ずつ「自己紹介」と「5年後どのようなまちになって欲しいか」について、ご発言をお願いいたします。

恐れ入りますが、時間の都合上、お一人1分を目安にお願いいたします。1分となりましたら事務局よりお知らせいたしますので、お話をまとめてくださいますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

●委員 周南市青少年育成市民会議より参りました原田と申します。よろしくお願いいたします。

青少年育成市民会議は、市民会議という略称で呼ばれていますが、子どもの健全育成に関する多くの団体で構成されております。共に理解・協力しながら連携し、つながりを深め、地域社会全体で子どもたちを見守り、育てることを目指す団体でございます。

しかしながら、多くの団体が関係していることで情報の共有ができず、活動自体が市全体で統一的に行われていないような現状もございます。地域によって情報や活動の格差が生じているということもございます。

現在、市民会議自体でも持続可能な組織体制や事業の見直しなどを行っております。5年後には、全市的な子どもの健全育成に関する情報が誰でも共有でき、情報、活動、また人材等も含め、地域格差が無くなるようなまちになってほしいと思っております。

●委員 自治会連合会の会長をしております田中でございます。

私は、第1次総合計画の審議会の委員もやらせていただきまして、当時を思い出しますと、当時の計画は、やや楽観的な人口見通しに基づいておりまして、やや現実離れしていたのではないかという感じがしております。この度の計画では、「人と人との絆を大切に、誰もが活躍できるまち」「海・島・山・里などの豊かな自然を生かした潤いのあるまち」「地域資源を生かした、活力あふれる産業のまち」を3つの柱としておりますが、それぞれ達成度をどのように評価するか、これは難しいのですが、その基準をまず明確にすべきだと思いま

す。

私たちの目指す周南市の姿については、住みよさ等いろいろマスコミが流す指標もありますが、他市との比較順位にさほどこだわる必要はないと思います。それよりも、当然あるべきものが無い例として、大規模な会議・宿泊施設が無いことなどが挙げられまして、この面を強化すべきと思います。

それから、「自然」について一言申し上げます。国立公園を含む自然公園は、国や県の指定を受けて一定の条件下で保護・利活用に努めるべきとされておりますが、都市公園との違いが十分認識されていないようでありまして、この点については改善を望んでおります。

●委員 周南市社会福祉協議会で業務課長をしております小林と申します。どうぞよろしく願いいたします。

周南市社会福祉協議会では、地域で高齢者の生活を支える体制づくりを目指しまして、平成27年度より生活支援体制整備事業というものに取り組んでいくところがございます。この事業は、地域の住民が地域社会に関わりを持ちながら、住民主体の活動や地域の団体、企業、行政との協働を通じ、社会参加、介護予防、生活支援につながる活動やサービスが充実している地域社会の実現を目指しているものがございます。

具体的には、協議体という話し合いの場を、市内の31地区・小学校単位に設置いたしまして、そこに「地域福祉コーディネーター」という協議体と協力しながら自分たちのまちをより良くしていくために、地域のさまざまな支え合いの活動の場をつなげ、組み合わせる調整役の方を配置いたしまして、地域のネットワークづくりをしていこうという運動でございます。地域のネットワークを生かしながら地域の互助を高め、住民主体のサービスが活性化されるよう地域全体で高齢者の生活を支える体制をつくっていったらなと思っています。

平成30年度までに市全体の協議体、それから小学校区の第2層の協議体というものを、現在、6地区ほど設置を完了しているところございまして、来年度、引き続き全31地区に協議体の配置に向けて取り組んでいこうというところでございます。

5年後には、市内31地区にこの協議体が設置され、市民の皆様にごりが起こった時には、気軽にご近所と助け合いながら、その地域の皆様で解決ができるような周南市になっていったらなと思っています。取り組んでいるところでございます。よろしく願いいたします。

●委員 周南市老人クラブ連合会の原田でございます。

何事にも、発展するには若い者の力が必要であると思います。周南市には徳山大学があり、若者を招致する立派な母体があります。大学にはそれぞれの特徴ある伝統がありますが、徳山大学には開校以来、もう半世紀近くになると思

いますけども、これといった特徴がなく、知名度が低いと思います。「徳大」と言えば、大体、徳島大学になるのだそうです。

体育部を創設して、野球ではドラフトの指名を受けるような選手、あるいは柔道、レスリング、陸上ではオリンピック候補に挙がる選手を育成、輩出できるような体制づくりが大切ではないかと思います。甲子園に出場する高校では、知名度が上がることにより、入学志願者が増え、偏差値も徐々に高まり、一流校の仲間入りを果たしたケースもございます。

もっとも、首都圏と地方の違い、あるいは大学と高校の違いはあると思いますけども、まず、体育学部を創って、その体育が若者を誘致する起爆剤になればいいと思います。

●委員 周南市民生委員児童委員協議会の藤井でございます。限られたところしか知見が無いのですが、私の期待する5年後のまちのイメージを述べさせていただきます。

すでに市役所や駅前の賑わい交流施設、広場などのいわゆる行政施設や商店街、商業施設は、逐次整備されつつあると思いますし、限られた原資をこれから5年後は周辺地域に配分していただきたいと思っています。

周辺地域、いわゆる北部・西部・東部には既に総合支所あるいは市民センターがあるのですが、そのコアになっているところに、さらに医療機関あるいは介護施設、スーパーマーケットを集約し、そこを小拠点化するということです。この拠点から小型のバスが周辺の集落へ循環し、人を集めて、いろんな足を確保するということです。そのことによって、医療ストレスあるいは介護ストレスから解放されると思っています。また、人口流出も避けられるのではないかと考えています。

コミュニティ活動につきましても、今、中央におんぶに抱っこ状態ですけども、そういうことが進展していけば、それぞれの地域が自立したコミュニティ活動ができるのではないかと考えています。

●委員 周南市母子保健推進協議会の会計を担当しております丸山と申します。

私たち母推は、平成30年度は129名で、目標は6,600件の訪問だったのですが、今回は7,200件で、1割ぐらい目標をオーバーするほど頑張っております。今、やはり虐待とか大変な時代になっていると思うので、お母さんと市の懸け橋となって、少しでもそういう事件が起きないように、声掛けがとても大事だと思っていますので、それを頑張って私たちは活動しております。

私も今回初めてなので、どういうことを考えてよいか分からなかったのですが、まずは、老いも若きも誰にも、やさしく、安心して、安全に、生活・子育てしていける周南市であってほしいと思います。また、つい最近動物園に伺っ

たのですが、リニューアルが進んでいる動物園が近隣からの集客を積極的に進め、より進化・充実した観光スポットとなるように望みます。

また、もう少しで完成する新庁舎が、近年増えている自然災害から市民を守る安心安全の拠点となるよう、ハード面・ソフト面での充実を望みます。

●委員

私も今回初めてです。自主防災組織から参りました戸倉と申します。よろしくお願いいたします。

今日の午前中、自主防災の会議がありまして、皆さんともお話しする機会があったのですが、近年、災害・災難で大変な被害者があちこちで出ております。周南市にも昨年度もありましたけれど、いつ、どこで、何が起こるか分からないという観点から、私たち自主防災では、「自分の命は自分で守る」ということで、行政の方にも大変頑張ってもらっていますが、「いざとなった時には行政は頼らずに自分たちでできることをしよう」というコンセプトで自主防災は動いております。

いろんな型の災害が起こっており、基本的には災害となった時にニュースの報道でもよくご覧になると思うのですが、避難所云々という話もありますけど、やはり基本は人と人とのつながり、日頃からの隣近所、自治会、地域というのがきちんとつながっていないと、避難所というところが大変難しいところになってしまいます。何をやるにもやはり人と人がしっかりとつながってコミュニケーションが取れていることが、いろんな問題を解決する一番の近道ではないかなと個人的には思っておりますので、周南市の行政の方はすごくよく動いてくださっていると思います。あとは市民がいかに知恵を働かせて、行政を助けていくかというのを考えていかなければいけないと思っております。

私も5年後ということを考えますと、人と人がつながることで、行政におんぶに抱っこではなくて自分たちで考えて動ける市民になりたいなと思っております。

●委員

周南市コミュニティ推進連絡協議会の梶山でございます。どうぞよろしくお願い致します。

「周南市のまちづくりについて」でございますが、人口が減り、税収が減り、財政状況が厳しくなる中、行政ができることは限られてきます。同時に、よりよい生活を求める市民からは今以上に要望が出てくるはずで、その乖離した部分を埋めるためには、公と民が今以上に連携し、公が民を理解し、民が公を理解し合って進めるまちづくりが必要と考えます。

5年後、公と民が一つになり、未来を担う若い人たちの声を反映させることができるまちになっていたらと思います。以上です。

●委員

周南文化協会から来ました渋谷と申します。よろしくお願い致します。

私も初めてで、どういことを申し上げていいか分からなかったのですが、

まず、一人でも多くの若者が留まるまちになればいいなと思います。そして、文化の面から、高齢者が楽しめる元気なまちにしていきたいと思います。

一例挙げますと、公民館から市民センターになりまして、良くなるのかと思いましたが、生涯教育の場ではなくなったと申されました。コミュニティは大事にするが、講座に対しては冷たいのです。私は文化協会の副会長もやっておりますが、川柳協会にも加入しており、今宿公民館には24名の川柳の会の会員がおります。そしたら、市民センターになりましたので、車は5台までにしてくれ、市民に開放される場であって、講座のための場ではないと言われて追い出されました。ということで、市民館はありませんし、高齢者の方が集う場所がすごく少ないと思います。

それと、余計なお節介ですけど、せっかく周ニャン市と謳われたのなら語呂合わせじゃなくて、「猫好きが集える場所があるのかな？」という質問を何度も聞きます。「周ニャン市には猫がいっぱいいるのですか？」と聞かれます。だから、猫もいる動物園とか、図書館とか、そういう案が無く、ただの語呂合わせでは、聞かれたときに「語呂合わせです」で終わりなんですね。そういうことのないように、何か良い案でもあって周ニャン市と決められたのか、そのところを伺いたいと思っています。よろしくお願いします。

●委員

周南市体育協会から参加をしております藤井と申します。

体育協会では、日々所属団体と共に「スポーツを通じたまちづくり」ということで日々活動しております。昨年10月には大相撲周南場所を開催しまして、市民の多くの方にご参加をいただきました。

ただ、これは単発の事業でございます。今、西京銀行さんはバドミントン、山口銀行さんはハンドボールに力を入れてやっておられますけど、例えば、周南市といえばこれだという競技に特化して、まちづくりをしていくということも一つのアイデアではないかと思っております。体育協会としても、もしそうなればバックアップをさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

●委員

皆さんこんにちは。周南観光コンベンション協会の山田と申します。

周南観光コンベンション協会は、設立して丸5年になる団体で、普段は観光やコンベンションの誘致活動、物産の振興など、周南市にたくさん人が来ていただけるような活動しております。

その中で、5年後というか、今現在も私たちの目指すところではあるんですけど、まず周南のファンをたくさん作ろうということで日々活動しております。住んでいる方も、ここで働いている方も、ここに訪れた方も周南のファンになっていただけたらということで、5年後、10年後とますますファンが増えていったらいいなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

●委員 皆さんこんにちは。徳山商工会議所青年部の平成30年の会長をさせていただいております岡本といいます。僕の青年部の会長の任期があと一週間なので、どうしようかと思いつながら、市長から委嘱状をいただきましたので、最後まで務めさせていただきたいと思つます。

5年後といつますか、僕も下の子どもがまだ小さいので、5年と言わず、10年、20年、自分の子どもが結婚して、子どもを産んで、孫が見れるぐらゐまで先を、僕たち世代は見ていかなければならないと思つておつます。

木村市長も常日頃から「民間で出来ることは民間で」と言われておつます。周南市は海と山がこれだけ近くにあり、他にはなかなか無い立地だと思つておつます。そして、一番の利点は新幹線が停まるということだと思つますので、それらを生かした産業基盤の強化であつたり、どんどん人が来てもらえるようなまちづくりをしていければと思つておつますので、よろしくお願ひします。

●委員 新南陽商工会議所の片山と申します。よろしくお願ひいたします。

私ども商工会議所では、会員事業所さんへの支援を主に行つておつます。やはり、商工業、企業が元気でないと何も成り立っていかないと思つます。人も住まない、仕事がなければ外に人口が流出してしまつます。

今、山口県内は事業承継がなかなか進んでおらず、全国ワースト2位となつておつますので、事業承継も私ども職員一同頑張つて推進しておつます。また、若い人たちに創業をより活発にさせていただけるよう、市税の優遇などは行政におまかせして、私どもは頑張つている若者たちの創業が進むようなまちづくりをしたいと思つておつます。

●委員 皆さんこんにちは。私は山口県漁協、平成17年8月に県下の漁協が合併いたしましたして、その中が10のブロックに分けられ、個々の地区は周南統括管内ということで、そちらで統括支店長をしておつます藤村といいます。よろしくお願ひいたします。また、付け加えさせていただきますと、私、徳山大学の11期生の卒業生でありまして、随分先生方の顔も変わったなど、学生さんも随分顔色いいな、というようなことを考へておつます。

今、皆さんがいろいろご発言なさつておつますが、まず周南市の旗、あちらにあるんですけど、あれは上が緑色で、下が青色。これが山と海を表しているとお聞きしておつます。この地区につきましては、豊かな自然に恵まれた地区であり、海岸部には日本有数の大企業も経済活動を行う山口県の中心的地帯になつておつます。

ただ、この周南市におきましては、山間部、都市部、工業地帯、海岸部、それぞれが独立して存在しているような状況になつておつます。これをそれぞれ連携した活動ができれば、もっと周南市が発展するのではないかとおつことを考へておつます。

我々は漁業をやるのが収入になりますので、共存・共栄というのは今の時代はありません。共存・共生、共にその場で生きていく。こういう活動を目指して、今、漁業を行っているのが我々の団体になります。

また、交流をさらに活発化させるためには、縦の連携・横の連携というのは大変必要となってくるものです。産業道路を皆さんご存知だと思いますが、今は止まっています。これは、港湾計画の中では延伸されて櫛浜地区まで延びるといって港湾計画道路図に入っています。これについては、やはり市でできないものであるとか、県のほうに強く要望するとか、お互いできることをやる。できないところは助けを求める。こういったことで、お互いが連携し合って、まちはつくっていくべきものではないかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

●委員

公募で選任されました、荒谷と申します。この2月中頃には、大体雪がどさどさと降るのですが、今年はなかったですね。ということは、やはり温暖化がかなり進んでいると僕は思っています。

我がまち周南は、化学プラントがたくさんありますので、副産物として水素が出ます。脱・化学燃料から水素再生事業ということで、燃料電池車などが走る公共機関ができればと思っております。そうすれば、人・環境にやさしい、新しいまちづくりができるのではないかと思っております。

そのためには、インフラを整備してもらって、ガソリンスタンドがつぶれたところは耐震性が強いので、そこに水素ステーションを作っていただいて、燃料電池車が走れるまち、人、環境にやさしいまちを作っていただきたいと思っております。

●委員

こんにちは。公募委員の高橋といいます。よろしく申し上げます。私は企業人として、西は広島、北は北海道千歳まで、いろんなまちに実際に住んで、人々の動きを長く見てきました。この経験を生かしながら、今回の委員の役割を果たしていきたいと思っております。

5年後の周南市、このまちのありたい姿としては、いろいろ考えられますけど、2点ほどお話しておきたいと思っております。

まず1点は、高齢者にやさしいまちであってほしい、それを実現していきたいと思っております。高齢者が病院など医療の場、スーパーなどの商業施設、市民センターなどの集会の場などに容易にアクセスできる、そういうまちを実現していきたいと思っております。

もう1点は、やはり我々市民自らが、このまちでいかに日々の暮らしを成り立たせていくのか、これを自らの責任で考えていこうという姿勢が5年後にはできあがっていたら良いと思っております。

さらに、周南市はいろいろな地域で構成されていますけど、それぞれの地域

に愛着を持つ市民自らが、その見える範囲で地道な活動にそれぞれ取り組んでおり、そういう市民を持続的に活かせるまち、そういう周南市をつくっていきたくて考えています。よろしくお願いします。

●委員

皆さんこんにちは。公募から選任されました附田と申します。

今回初めてですけれども、現状の核家族化により、私も核家族ですし、ご高齢の方もやはり核家族になっていると思います。5年後もこれが減るとは限らないので、地域が密着して、私が今年お手伝いさせていただくところでは、孤食の子たちを集めて、その夕食だったり、ちょっと遊んだりという地域活動にもボランティアでさせていただこうと思っています。そういった地域が増えれば、もっと地域が一つになって、何かあった時には助け合えるのではないかと考えています。

もう一つは、私も企業で働いている身ですので、もしも大きな地震などが起これば、企業もBCP（事業継続計画）とあって事業が継続して続けられるように対応していくことも周南市の活性化につながるのではないかと考えるので、各企業にも市と一つになって自分たちができることを考えていける5年後になってほしいと思います。

●委員

こんにちは。公募で1年間頑張ろうと思っております、原田と申します。日頃は、先程も社会福祉協議会の小林課長も仰っていたように、高齢者の見守り活動をしておりまして、夏休みと冬休みには徳山小学校の児童クラブでお手伝いをさせていただいております。

私は、趣味としてフルートを長年続けていて、昨年、山口ゆめ花博に出場する機会も与えられました。その関係で市民館の最後の時に来られたフルーティストの山村有佳里さんという方にお会いすることができまして、その時に気にされていたのが、「その後、周南市の文化的施設が何かできたのでしょうか。」と頻りに聞かれまして、私は、「存じ上げません。」とお答えしたのですが、私の特に関心のあること2点だけに絞って5年後の周南市に望むことを考えてみました。

人と人との交流が今よりも盛んになること、そして、私も仕事で関わっております支え合いの仕組みの実現に向けての活動が何かあれば良いなと思っております。趣味の活動もやっておりますが、やはり人々と趣味を通じての交流は楽しいものがありまして、周南市には文化会館、美術館、駅前図書館、学び・交流プラザ等々、とても整備の行き届いた立派な施設がコンパクトにまとまっていると思います。もっとこれらの施設に人が集まる、特に若い方が多く集まるイベントが多くなれば、賑わいが生まれるのではとっております。

また、高齢者や子どもとの関わり合いが常日頃あるのですが、日々元気に過ごしている人たちは、自分の居場所とか生きがいを持っているのだなと感じて

おります。年を重ねたら、「きょういく」と「きょうよう」（今日行くところ
と今日の用事）が大事であると、面白い語呂合わせを伺ったことがあります。
高齢者と子どもとの相性は良いのかもしれないなど日頃感じております。先程
の公募の委員さんも仰っていましたが、核家族化や働くお母さんの増加で、
昔に比べたら子どもを取り巻く環境も急速に変化しています。老いも若きも気
軽に集えるサロンのようなものがあれば良いと思います。

今のところ、私の考えている範囲ではその辺のことですが、今日、ここに集
まっている方々の意見を伺って、また新たに自分の考えを練り直していけたら
なと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

●委員

徳山大学経済学部 河田と申します。よろしくお願いいたします。

先程から本市の課題が出ておりますけれども、人口減少を食い止めていくこ
と、これが5年後に向けてのこととなっております。人口流出の多い世代とい
うのを見てみますと、若年層と、あともう一つ多いのが子育て世代となっ
ております。この世代の流出をいかに食い止めて、他市からできるだけ多く流入
してもらおうということが鍵になってくるのではないかと考えております。

若年層については、先程からいろんな方のご意見ございました。私の所属し
ております徳山大学、もっと頑張れというエールをいただいておりますけれど
も、その魅力をより多くのより良いものとするとともに、一方で、この地域に、
出口である就職をしっかりとしていかなければいけないと思います。また、学生
の話の聞きますと、遊ぶところがないというようなことを聞いたりします。例
えばラウンドワンのような遊ぶところがあったらいいなとか、そういう意見が
あります。そういう意味でスタバはちょっと成功かなと個人的には思っており
ます。これは民間がやることですが、そういうものが進出できるような
ものをつくっていかなくちゃいけないのかなと考えております。

一方で、子育て世代については、コンパクトシティである周南は、非常に便
利なまちであると思います。一方で、ここにもっと人を増やすには、U I J タ
ーンですね、やはり親の問題というものが段々出てくると思いますので、この
辺をいかに呼び込めるかということが大事になってきます。

現在の周南市って、持っているものは決して悪くないと私は考えております
ので、もっとこの辺をうまくアピールして、「住みやすいまち周南」というの
をもっとアピールしていけばいいのかなと考えております。よろしくお願いいたします。

●委員

徳山大学の井出野と申します。大学では、マーケティングと消費者行動を主
に心理的な側面からアプローチするということをしております。私自身はこち
らに着任して今年で3年目ということで、ずっと埼玉県に暮らしておりました。
海のあるところというのは初めて訪ねたということで、周南を見て、何でもあ

るなというのをつくづく思っています。

今の経済の学問というムーヴメントとしてあるのが、フューチャープランニングという大きなプロジェクトが今動いています。将来を設計するための経済学を使っていくということです。具体的に何がというのはそんな簡単に回答は出ないし、皆さんもずっと努力されていますが、今、苦いものを飲み込んででも将来のためにというものも計画上必要ですし、足元を見つめていくということが経済活動上重要ではないかと思っております。

あと、私が希望するのは、大学生とディスカッションしていても活気のあるまちがという声がよく出ますので、そういう研究が一群あるんですけども、幸福っていうものと、まちの人々の開放性というものが、関係してくるというのはよく指摘されています。それをどうやって促せるか、身近なところでは大学生にもっとまちに出ていけど、そして明るい声ももう少し聞こえるようにみんなで頑張ろうと声を掛けていくことかなと思っています。またいろいろ勉強させてください。よろしくお願いいたします。

●委員

徳山大学福祉情報学部の梅野と申します。よろしくお願いいたします。

普段、大学では社会福祉専門職の養成に携わっております。周南市の皆さんとは、2010年から、こども家庭相談室のスーパーバイザーとして、特に日常生活に支援を必要としていらっしゃるご家庭の子ども、親御さんの事例検討ですとか、あとは相談員の方々、保育士さん、児童福祉専門職の研修等に関わっております。

5年後どういうまちになってほしいかということで、今までの委員の方々のご意見と重なる部分もあるのですが、やはり子どもや若い方々が安心して豊かな生活環境の中で暮らすことができるまちになってほしいなと思います。特に、暮らしている子どもたちや若い方々自身が自分たちのまちが好きだなとか、これからも住み続けたいと思うことができるようになってほしいと思っています。特に、私は児童福祉を専門としているということで申しますと、中でも支援を必要としている、経済的であったり、障害を持っていたり、そういった社会的な支援を必要とする子どもたちも含めて、全ての子どもがそういった気持ちになってほしいなと思います。

特に、今の若い方の価値観に沿ったまちづくりが必要だなと考えているのですが、日常生活に潤いをもたらすような、例えばまちの景観であったり、整備された公園であったり、そういった空間づくりも重要かと考えています。そういった若い世代の意見を反映する仕組みというのを早急に作っていく必要があるなと常々感じておりまして、例えばこの審議会の委員にも18歳未満の子どもたちを子ども委員として招くなど、そういった当事者参加の仕組みも今後検討していく必要があるかと考えております。よろしくお願いいたします。

●委員

徳山高専土木建築工学科の目山と申します。よろしくお願いたします。

私は、専門は都市計画と建築設計を高専では教えているのですが、実を言うと、学校を出た後にコンサルティング会社で参加型まちづくりというものに関わらせていただきました。関わった地域の数を言うと、36の県におよびます。県庁から仕事をいただいたという意味では27の県で仕事をしたのですが、その中に東京・大阪・北海道は入っていませんので、日本の中の港は大概行ってきた、雪国で埋もれながら仕事をしたこともあるので、その中でこのまちぐらい良いところは無いなと思います。なぜかと言うと、日照時間が長い、冬でも温暖である、更に加えていくと、産業という面で豊かなんです。山口県下で一番豊かな地域は、この周南市を含む周南地域ですが、そういうものがうまく自然環境とかいろんなものと調和したまちづくりを進める、これが一番大事なことだと思っています。

実際に私が期待していることは、5年間という限りはありますけど、計画的なまちづくりを進めるということ、それからもう一つは選択と集中です。あれもこれもはできません。だから5年間の中でどこに力点を置いていくかが明らかになっていくような後期基本計画づくりであってほしいなと思っています。

具体的に言うと、個別課題という言い方はして良いかどうか分かりませんが、多様な人づくりをして多様性のある地域社会ができる。これは一つの目標かなと思います。それから、自然環境と豊かな産業が調和しないとイケません。産業があるけれども自然がなくなっていく、失われていく。これは良くない訳ですね。そうした安定した地域空間づくりができる。それから、高い交通結節機能、これを生かして交通拠点というか、交流拠点をつくっていかないといけない。だから、駅前図書館のような形で駅ビルが生まれ変わったことはすごく役に立っているなど、あれを更に進めていくと、都心軸、この岐山通とか、御幸通の評価ですね、それとあと、中心市街地の賑わいがさらに進んでいく、これが5年後にもう一度見れたら良いなと思っています。よろしくお願いたします。

●委員

徳山大学1年生の有馬です。よろしくお願いたします。

少し前にイベントで小学生と関わったのですが、そういうイベントがない限り、小学生とかと世代を超えた交流がないということで、5年後に世代を超えた交流がある活気のあるまちになってほしいと思っています。

今ほどこにでもあるキッズスペースのような場所が、年配の方にもつくって、キッズスペースの隣に置くことで交流が増えるのではないかと考えています。

●委員

徳山工業高等専門学校から来ました、長合です。今回は初めての参加で、周南市についても多くのことを知らないなので、この会議でたくさんのことを学ばせてもらって、次の会議につなげたいなと思います。

5年後の周南市に関しては、今後、地震などの大規模な災害が多くなってく

と思うので、災害時に備えて、耐震基準の超えていない、今ある古い建物の耐震化や、防災設備の整備などで災害に強い安心して住める住みやすい周南市になってほしいなと思います。

◇事務局 ありがとうございます。恐れ入りますが、市長は次の公務がございますので、ここで退席させていただきます。

◇市長 今、皆さんのお話をお聞きして、本当に多様な方が集まったなと思いますし、素晴らしい後期基本計画を期待しております。どうかよろしく願いいたします。

(市長退席)

◇事務局 なお、周南市まちづくり総合計画審議会規則第5条第2項において「会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。」と規定されております。本日は、32名の委員さんのうち、24名ご出席されておりますので、会議が成立しておりますことをご報告いたします。

また、本日は、周南市PTA連合会の澁瀬暢様、同じく周南市PTA連合会の江口誠一様、周南市快適環境づくり推進協議会の椎木滋様、周南農業協同組合の山田智様、周南森林組合の松田富雄様、公募委員の西川満希子様、横山和人様、和田真純様をご都合によりご欠席されています。

それでは、次に事務局を紹介いたします。

(事務局自己紹介)

5 会長及び副会長の選出

◇事務局 それでは、次に会長及び副会長の選出に入りたいと存じます。

周南市まちづくり総合計画審議会規則第4条で「審議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。」とされておりますので、皆さんの互選により会長、副会長を選出いたしたいと存じます。どなたかご意見はございますか。

●委員 私もそうですけれども、今日お集まりの委員は初めての方がたくさんいらっしゃいます。したがって、ただいまの議題につきましては事務局に一任したらと思っておりますが、いかがでしょうか。

●委員 (拍手承認)

◇事務局 ありがとうございます。今、事務局に一任ということのご意見がありましたので、事務局から会長及び副会長の方をご提案させていただきます。

会長には徳山大学の河田正樹委員、副会長には徳山工業高等専門学校の目山直樹委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

●委員 (拍手承認)

◇事務局 ありがとうございます。皆様の拍手をもってご承認いただきましたので、

皆様のご承認によりまして、会長に河田委員、副会長に目山委員が選出されました。河田会長、目山副会長におかれましては、前の席にご移動をお願いいたします。

(会長・副会長 移動)

◇事務局　ここで、会長、副会長より一言ずつご挨拶をお願いします。

○会長　会長に選出いただきました、河田と申します。徳山大学に参りまして、ちょうど20年が過ぎようとしています。20年前の3月終わりに、当時徳山市に来まして、気が付けば長くいるなという感じです。大学では結構大きな顔をしているのですが、今日、皆様のお話を伺って、私よりも人生経験も、ましてや私よりお若い方でもいろんなことをやられているということを感じまして、会長というのは私には力不足ではございますけれども、皆様にいろいろご意見をいただきながら、何とかまとめていければと思っております。どうぞよろしくをお願いいたします。

○副会長　目山でございます。副会長ということでご指名いただきました。実際のところ、私自身の専門は建築分野といいますか、都市計画、空間を作ったりするところが多くて、その中でもソフトウェア、要はお金をかけずにどう工夫するかみたいなところを頑張っているわけですね。そういう意味では、総合計画をつくる、まちづくり総合計画をつくるというところは、割合合致しているかなというところがあります。

その中でも、安心安全分野に非常に興味を持っているのは、小学生、中学生、山口県下で全部合わせてどのぐらいおられると思いますか。10万8千人程おられるのですが、私が9年間に防災教育に関わった子どもたちは、重複している人もいますのですが、約1万4千人です。大体1割くらいに関わってきました。子どもさんたちにアプローチすると反応がいいんです。反応が良いというのはなかなかない。参加型まちづくりの要諦は、アプローチの仕方と結局そこから何を引き出してきて皆さんでどう共有していくかというところになるんで、この会議を、副会長としてお支えしていきたいと思っておりますけど、できる限りそういうことで関わっていただけたらなと思っております。よろしくをお願いします。

◇事務局　ありがとうございました。それでは、これから「議事」に入ります。これ以降の進行につきましては、審議会規則第5条の規定により、会長が議長を務めることとなっておりますので、河田会長、どうぞよろしくをお願いします。

6 総合計画及び周南市まちづくり総合計画審議会について

○会長　それでは、規定により、議長を務めさせていただきます。議事進行につきまして、委員の皆さんのご協力をよろしくをお願いします。それでは、次第6の

「総合計画及び周南市まちづくり総合計画審議会について」、事務局から説明をお願いします。

◇事務局 それでは、事務局からご説明をいたします。その前に、配付資料の確認をさせていただきます。事前に資料をお配りしておりますけれども、まず議事次第があり、本日お配りしております配席表、資料が1から6までございます。そして、事前にお送りしました第2次周南市まちづくり総合計画の概要版と、本日机の上に置いております本編。以上の資料がお手元にあるかご確認をいただければと思います。よろしいでしょうか。それでは、まず総合計画及び周南市まちづくり総合計画審議会についてご説明します。

(資料2から資料4に基づいて説明)

○会長 ありがとうございます。ただいまの事務局からの説明で、何かご質問がございましたら、お願いします。

●委員 (質問なし)

7 周南市の現状について

○会長 それでは、引き続き次第7の「周南市の現状について」、事務局より説明をお願いいたします。

◇事務局 事務局より周南市の現状についてご説明いたします。

(資料5に基づいて説明)

○会長 ありがとうございます。ただいまの事務局からの説明で、何かご質問がございましたら、お願いいたします。ございませんでしょうか。

●委員 この後、スケジュールの話があるのでしょうかけれども、資料の中で、周南市の人口について2040年までのグラフが作ってあります。計画をつくるうえで、いわゆる財政の部分も少し頭に置いていかないといけないという気がするんですけども、その歳入歳出の部分、特に歳入の部分について、平成28年までがグラフで可視化されていますが、この先の人口の推移がおよそ分かる中で、地方交付税とか国庫支出金の予測というのは現時点でつくのでしょうか。

○会長 事務局、回答をお願いします。

◇事務局 なかなか難しい問題ではございます。歳入ですが、税収は市民税であったり固定資産税であったり、いろいろあります。固定資産税は若干伸びている状況ですけれども、今、周南市で何が良いかといいますと、やはりコンビナートなどの産業がありますので、そういったところから税収がたくさん入ってまいります。今は、それなりに好調ではございますけれども、ここはなかなか予測が立ちにくいところではございます。さらに、歳入は市税だけではなく、国からの交付税などもございまして、合併して15年間は合併特例債というのがある。合併して交付税もだんだん減ってきているような状況になっています。そうい

ったことで、10年後の予測をどうかという話がありますけれども、現在の歳入の額については、非常に厳しいものでございます。また、歳出も実は考えなくてはいけなくて、これからインフラや市が持っている公共施設の維持管理費が増えてくる形になります。そういったことを総合的に考えないといけないというのは、おっしゃるとおりでございます。なかなか数字で示すというのは難しいということでございますので、ご理解いただけたらと思います。よろしくお願ひします。

○会長 よろしいでしょうか。

●委員 審議会は基本計画の部分を協議するというので、それはあくまでも分野ごとの施策の方向性を考えていくということなので、財政部分に関しては、ここにある現状の部分がほぼ続くだろうと考えて、その方向性の部分を検討していくという感じですか。

◇事務局 当然、財政がないと言って何もやらないわけにはいなくて、予算というのは、選択と集中というのがあります。ある程度基本計画の中では、こういったのをやったらいいなというのを挙げていただければと思います。

このまちづくり総合計画の下には、実施計画というものがございます。これは3年間のローリングをしてやりますので、その基本計画で組み立てたものを、何が重要かというのを3年間かけて重点的にやっていくという計画を下に持っております。

基本計画におきましては、歳入歳出というのは分からないなりに、皆さんのまちづくりというのはいくつか必要だというものを挙げていただければと思っておりますので、よろしくお願ひします。

○会長 他にございますか。ございませんようでしたら、次に移らせていただきたいと思います。

8 スケジュール等について

○会長 続いて、次第8の「スケジュール等について」、事務局より説明をお願いいたします。

◇事務局 それでは、スケジュール等について、事務局からご説明いたします。
(資料6に基づいて説明)

○会長 ありがとうございます。ただいまの説明の中でありましたように、部会の中で変更希望がある方につきましては、事務局まで早めに連絡するようにお願いいたします。このスケジュールについて、何かご質問がございますか。

○副会長 このスケジュールの中身で、6月中旬～下旬のところに、「市長から諮問」という書き方だけがされているので補足していただきたいのですが、この段階で後期基本計画案が出ると理解してよろしいか。それから、6月の第2回の審

議会の中で、全体会として審議をする可能性があるのか、説明だけに終わるのかどうか。それから、7～8月の「各部会ごとに審議」については、同時開催するのか、あるいは日付が違って開催するのか。日付が違っているのであれば、違う部会があるときに参加が可能かどうか。スケジュールを調整していない段階でしょうから、言いづらいかもしれませんけれども、部会は同時開催する方向でいるのか、それとも参加される委員の日程調整のうえで一番出やすいところでやっていくのか、その辺りのところを伺いたいと思います。最後の9月以降に第3回となっていますけれども、第2回目で後期基本計画案が出されると、それについての説明だけがあって、その後、部会審議をして、最後の第3回のところで全体を通しての審議をするという組み立てのように見えるわけですが、その辺りをもう少し丁寧に補足説明をしていただければありがたいと思います。

◇事務局 一番初めの6月の基本計画は、素案でございますけれども、これは基本計画案という形でお出しするようになります。2番目でございますけれども、審議をするかどうかでございますが、お示ししてすぐになるかと思っておりますので、どこまで深くできるか分かりませんが、ご意見があれば発言することはできるかと思っております。その後、すぐに部会の方に分かれて、深い審議をしていただきたいと思っております。3番目が各部会の進め方でございますけれども、各部会の皆様の都合の良い日、最大限集まれる日を事務局の方で調整させていただきますので、同時開催というわけではなく、皆さんの都合の良いときでございます。そこに別の委員を入れるかどうかというのは検討させていただきたいと思っております。そして、最後に全体の審議がほとんどないのではないかという話でございます。3回ほど審議していただくようにしておりますけれども、実はもう1回予算をとっておりますので、必要であれば全体の審議会の方を開けるようにはしております。よろしいでしょうか。

○会長 他にございますか。その他、本日の全体を通してのご質問があればよろしくお願ひします。

○副会長 皆様方、今日、この分厚い方、前期基本計画と一緒にしているのを見ていただきながら、事務局に対して、どういう形で出てくるのかを聞いておきたいなと思ひます。

例えば、109頁を見ていただくと、現状値と目標値というのが、例えば「安全管理の強化」の監視カメラを6カ所から9カ所とか、具体的な数字が示されています。要は31年度が計画で言うと5年目にあたるので、その時点までここまでいこうとしていらっしゃるわけです。質問は、前期の基本計画でどこまで進捗していったかの進捗管理は、後期基本計画案の中に入ってくるのでしょうか。それとも、そこではまだ年度的には31年度の数字は入らないので、

30年度までの数字なら出すのか、あるいは現状の進捗率みたいなものまでは言及しない予定なのか、その辺りを教えていただけたらと思います。実際には、後期基本計画の中では、現状値の31年度に対して、次の36年度時点の目標値を立てられると思うのですけれど、それをどの段階までに出すのか、あるいはこの審議会の中では目標値設定については、完全に年度が終わっていないので、現状値は仮にしか出せないとか、その辺りの考え方がどうなのか説明していただきたいなと思いました。よろしくお願いします。

◇事務局 まず、現状分析でございますけれども、現状分析を6月の審議会までに行けるところの最新の状況でさせていただき、それをとりまとめまして、素案に反映させていくという作業はしていかなくてはいけないと考えております。

それから、いろんな目標値でございますけれども、確かに109頁の方、結構細かい目標値をたくさん書いております。まちづくり総合計画の進捗をみるための目標は、もっと大きなところの目標値でいいのではないかと考えておりますので、そういった形で目標値の方を示させていただければと考えているところでございます。

○会長 他にご質問はございますか。

無いようでしたら、本日は第1回目の審議会ということで、委員の皆さんの顔合わせと本格的な審議前の基本的な説明として、総合計画の概要や審議会の役割等について事務局から説明を受けました。次回以降、具体的な審議になるかと存じますので、皆さんどうぞよろしくお願いいたします。

本日の日程は以上ですが、最後にその他として事務局から何かありますか。

◇事務局 事務局からお知らせとお願いがございます。

(事務連絡)

○会長 以上で、次第に基づく全ての日程を終了いたしました。

本日、木村市長から審議会委員として委嘱状をいただいたわけですが、まちづくり総合計画は周南市のまちづくりの基本的な指針であり、市のまちづくりの最上位計画となる重要な計画でございます。審議は本日からおよそ半年をかけて行うこととなりますが、より良い計画づくりに向けて皆さんとしっかり議論してまいりたいと思いますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

長時間にわたり、大変お疲れ様でした。それでは、進行を事務局にお返しいたします。

9 閉会

◇事務局 ありがとうございます。それでは、以上をもちまして第1回周南市まちづくり総合計画審議会を終了いたします。本日はありがとうございました。